

尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

# デイケアニュース



cover photo : Makoto KATOH

- message : 近藤国嗣会長
- event preview : 第48回全国デイ・ケア研究大会2024 in 札幌・北海道
- topics : 在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース
- report : 一般社団法人 全国デイ・ケア協会 法人化十周年記念式典
- voice : 活動と参加してみた！ 🍷 認定デイ・ケアマスターの声
- new series : すぽっと・らいと～あなたの職場のプロフェッショナル～
- 会員施設紹介 : 介護老人保健施設 ペあれんと



一般社団法人全国デイ・ケア協会  
Japan Association for Day Care

## 介護・医療・障害のトリプル改定により 「いま」と「明日」に求められるサービスとして さらなる事業の発展と強化

日頃より当会の活動にご理解・ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。初めに、令和6年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震によってお亡くなりになられた方に哀悼の意を表するとともに、現在も避難生活等で大変な日々を過ごしている皆様へ心からのお見舞いを申し上げます。当会は日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)の一員として活動しており、少しでも復興の一助になりますと幸いです。さて、令和5年度はCOVID-19の感染症分類が5類に移行したことにより、徐々に以前の生活が戻りつつある一年でした。しかし、現時点においても医療・介護施設ではクラスターの発生が散見され、さらには過去にないほどインフルエンザが大流行したことで、緊張感を持った日々をお過ごしのことと存じます。我々通所リハビリテーションは、介護保険サービスの中でリハビリテーションという重要な役割を担っています。社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、今後も日々の運営に励んでいただけますと大変うれしく思います。

さて、令和6年度は介護・医療・障害のトリプル改定を受けての初めての年度になります。通所リハビリテーションにおいては、リハビリテーションマネジメント加算にリハビリテーション・栄養管理・口腔管理の一体的な取り組みが新たな評価体系として組み込まれ、多職種による関わりが強化されました。また、リハビリテーションマネジメントの取組に加えて、リハビリテーション専門職を多く配置している大規模事業所は通常規模と同等の基本報酬になります。これにより、積極的なかわりを行っている事業所が評価される仕組みになってまいりました。今後はこれまで以上に事業所の質を問われる時代へと変化していくため、今から効果的な取組を強化していくべきでしょう。

そのような中で、当会は兼ねてより研修会を通して様々な情報をお伝えしてまいりましたが、「いま」



全国デイ・ケア協会 会長  
東京湾岸リハビリテーション病院 院長

近藤 国嗣

求められるサービスとして適応できるよう、そして「明日」求められるサービスとは何かを考えながら、さらなるブラッシュアップを続けていきます。令和5年度においてもオンライン形式の研修会を多数開催しました。一方で、集合開催を望む声も多く、それぞれの利点を活かした研修体系の構築に励んでまいります。

また、令和5年度在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースでは、22名の仲間と約1年間ともに学ぶことができました。令和6年度も引き続き本コースを開催いたします。質の高い在宅リハビリテーションを目指して、日々研鑽を続けていきたいと思います。

さらには、「第48回全国デイ・ケア研究大会2024in札幌・北海道」が6月28日～29日に、北海道立道民活動センター「かでの2・7」を会場に開催を予定しています。様々な企画の準備を進めてまいりますので、多くの方にご参加をいただけますと幸いです。

末筆になりますが、今後も会員の皆様とともに、通所リハビリテーションの発展に向けて新たな時代を駆け抜けてまいります。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

知的好奇心は止まらない。止めてはいけない。

### さらにブラッシュアップされた、充実した内容の研修会スケジュール。

当会では様々な研修会を企画しております。下記スケジュールをご確認の上、ご希望の研修会にお申し込みください。

#### JADC EVENT SCHEDULE

	開催日	研修会	開催地・開催方法
5月	18日(土)～19日(日)	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
6月	8日(土)	状態別対応セミナー 介護予防編	オンライン開催
	9日(日)	状態別対応セミナー 中重度者編	
	27日(木)	報酬改定対策セミナー～課題を共有してその場で解決～	北海道立道民活動センター「かでの2.7」
	28日(金)～29日(土)	第48回全国デイ・ケア研究大会2024in札幌・北海道	
7月	18日(木)～19日(金)	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
8月	3日(土)～4日(日)	在宅リハEGコース①	東京駅近郊

※最新情報は当会ホームページをご参照ください

### 公式LINEアカウントを開設しました。

当会ではLINE公式アカウントを開設しました。

本アカウントでは、研修会情報や様々なお知らせ等を不定期に発信してまいります。是非とも友だち登録をよろしくお願いいたします。



#### 要注目

会員限定

ON DEMAND

## 会員向け無料教育セミナー定期配信中

全国デイ・ケア協会では、会員限定にオンデマンド配信による教育セミナーを開催しています。第15弾は「高齢者の骨折と転倒予防」、第16弾は「通所リハビリテーションとかかりつけ医の連携」を開催しました。視聴者アンケートからは大変好評をいただいています。本セミナーが会員の皆様のお役に立てますと幸いです。

#### 会員向け無料教育セミナー 配信スケジュール

令和6年

5～6月配信

パーキンソン病とリハビリテーション

7～8月配信

在宅リハビリテーションにおける脳卒中患者の下肢装具



令和6年度も  
多数の教育セミナー  
を企画!!



# 第48回 全国デイ・ケア研究大会 2024 in 札幌・北海道

テーマ

Be ambitious! 一歩先へ  
デイケア再興! ~'24年度同時改定を力に変えるために~

会期 2024年6月28日(金)・29日(土)

会場 かでる2・7 北海道立道民活動センター

大会長 橋本 茂樹  
(医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院 院長)

実行委員長 佐藤 義文  
(医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション部長)

主催 一般社団法人 全国デイ・ケア協会

主管 医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院



## さあ、6月の札幌・北海道へ

今年度は診療報酬と介護報酬の同時改定の年です。徐々に内容が漏れ聞こえますが、決してデイケアにとって良い情報ばかりではないようです。腹を据えてこの改定を乗り越えなければなりません。毎年行っているアンケート調査では約半数のデイケア施設が赤字経営で、地域で十分力を発揮できない状況です。これからもっと加速する超高齢化社会において、デイケアの役割を果たすために上手に改定を力に変えなければなりません。「デイケア再興」のために、当研究大会は準備を進めております。帰るときには、「デイケア最高」と叫んで札幌から帰ってみたいと思っています。

今回は当溪仁会グループの医療法人と社会福祉法人が手を結び、また北海道のグループ外の施設の協力も得て、皆さんをおもてなしするために準備を進めております。

しっかり学び、しっかり楽しむには、6月の北海道は最高に良い季節です。皆さん、目を閉じて6月の北海道の大自然をイメージしてください。雄大な空と大地よりなる北海道でしか見れない素晴らしい景色と美味しい美味しい海鮮料理・お肉料理が皆さんをお待ちしております。

### 溪仁会グループ 協力施設

#### 社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設

- コミュニティホーム白石
- コミュニティホーム八雲
- コミュニティホーム美唄
- コミュニティホーム岩内

### グループ外協力施設

- 北樹会病院 / 在宅リハケアセンターつきさつ通所リハビリ (札幌)
- 西堀病院 / 通所リハビリテーション西堀 (函館)
- 田中医院 / デイケアセンターさくら (厚岸)

## 特別企画1 患者さんのアドヒアランスを上げるために……

アドヒアランスを高める手法を学べるように2つの教育講演を準備しました。

- 1) 竹林崇先生による上肢活用アプローチとしてのトランスファーパッケージの活用
- 2) 石垣智也先生による下肢活用アプローチとしての行動変容技法の活用

この2つを学べば、患者さんの「活動」向上への日々のアプローチが変わります。必見です。

## 特別企画2 デイ・ケアが地域リハの旗艦になれるか……

先達の浜村・斉藤両先生の地域へのおもいを学び、そこからのデイ・ケアの在り方を参加者と一緒に議論していきたいと思えます。外来をしていない回復期リハ病棟も増えてきました。地域に開かれているデイ・ケアが今後大きな役割を占めていくと考えます。

## 特別企画3 ICFのポジティブ思考を「参加」への原動力に!!

皆さん、ICFを十分活用していますか? この企画では日本で一番のICFスペシャリストである北大の向野雅彦教授にICFのポジティブ思考の基調講演をいただき、PT/OT/STの現場での実践を通じた症例から「参加」につながるアプローチを学んでいきます。大いに参考になるシンポジウムにしています。

## プログラム ※敬称略

1日目 6月28日(金)

### 開会式

大会長講演 地域リハビリテーションの実践  
摂食嚥下・口腔から認知症へ / 札幌から桑園地区へ

講師 橋本 茂樹 (札幌溪仁会リハビリテーション病院 院長)

協会長講演 デイ・ケアの今とこれから - 改定を受けてどう変わるべきか -

講師 近藤 国嗣 (東京湾岸リハビリテーション病院 院長)

特別講演1 令和6年度介護報酬改定のポイント - リハビリテーションを中心に -

講師 上田 貴代氏 (厚生労働省 老健局老人保健課 高齢者リハビリテーション推進官)

特別講演2 デイ・ケアは地域リハビリテーションの旗艦になり得るか!?  
鼎談……リハビリテーションにかけた先人達から学ぶ

講師 斉藤 正身氏 (医療法人真正会 霞ヶ関南病院 理事長)  
浜村 明德氏 (医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 名誉院長)

教育講演1 認知症の人への接し方……ユマニチュードの技法とは!!

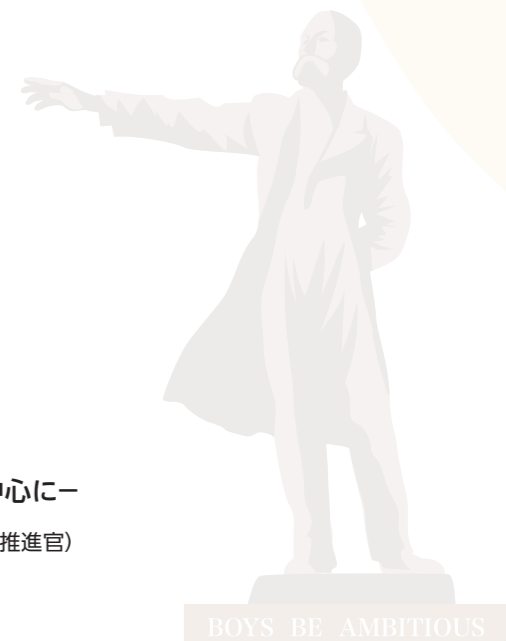
講師 大島 寿美子氏 (北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科教授 / 日本ユマニチュード学会理事)

教育講演2 生活期の効果ある上肢リハ……アドヒアランスを上げることの重要性

講師 竹林 崇氏 (大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科リハビリテーション学専攻/医学部リハビリテーション学科 教授)

老健事業報告 令和5年度老人保健事業推進費等補助金老人保健増進事業報告

講師 染谷 和久氏 (医療法人真正会 霞ヶ関南病院 情報戦略室室長)





2日目 6月29日(土)

教育講演3 安全感染対策委員会企画:デイケアにおける送迎業務の法的課題

講師 鈴木 雄介氏(鈴木法律事務所)

教育講演4 在宅生活維持に重要なデイ・ケアでの口腔・栄養・リハの三位一体アプローチ

講師 佐々木 淳氏(医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長)

教育講演5 セルフマネージメントに役立つ行動変容技法の活用

講師 石垣 智也(名古屋学院大学リハビリテーション学部理学療法学科)

シンポジウム1 在宅での「参加」を意識したデイ・ケアにおけるICF活用の再考  
～ICFポジティブ思考をどう活用するか～

講師 向野 雅彦氏(北海道大学医学部リハビリテーション部 教授)

シンポジスト1:OT 堀 翔平氏(札幌深仁会リハビリテーション病院)

シンポジスト2:ST 塩原 大輝氏(霞ヶ関中央クリニック)

シンポジスト3:PT 岩淵 隆俊氏(介護老人保健施設せんだんの丘)

シンポジウム2 認定デイ・ケアマスター/在宅リハEGコース修了者の実践報告

座長 澤潟 昌樹氏(医療法人社団輝生会 生活期支援局 統括部長)

シンポジスト1:佐藤 公紀氏(通所リハビリテーションぎんや通り 作業療法士)

シンポジスト2:三宅 麻絵氏(介護老人保健施設いるかの家リハビリテーションセンター 管理栄養士)

シンポジスト3:野崎 隆司氏(いしかわ内科 理学療法士)



### 札幌市中央卸売市場 場外市場で新鮮な海の幸を楽しもう!

カニ、イクラ、ホタテ、ウニなど、北海道を訪れたら是非味わいたい海の幸。



札幌地区対象ホテルにご宿泊の方は、ご希望によりホテルの朝食を「札幌市中央卸売市場 場外市場」の海鮮丼に変更して朝食をお召し上がりいただけます。  
※詳しくはJTBのHPへ

### 「トゥクトゥク」でさっぽろちょこっと散歩

料金:不要



短時間の観光にも便利!夏の札幌をコンパクトに楽しむ!  
東南アジアで日常の足代わりに使われている三輪タクシー「トゥクトゥク」。約30分でさっぽろ・大通の観光箇所を効率よくめぐります。途中下車して、写真撮影もOK!  
※詳しくはJTBのHPへ

【JTB札幌旅行ページ】  
<https://www.jtb.co.jp/kokunai/area/sapporo/>



### 新千歳空港ではソフト・アイスクリーム総選挙がありました!

結果はこちら

新千歳空港 ソフト・アイスクリーム 総選挙 2023

ご投票ありがとうございました! 結果発表!

賞	店名	商品名
第1位	きののや 新千歳空港店	「献上牛乳ソフト」
第2位	ミルクパフェ よつ葉ホワイトコージ	「ソフトクリーム パピコラワッフルコーン」
第3位	ジャージーブラウン	「ジャージーソフトクリーム」
第1位	聖印パレーサー フードコート店	「空港ソフト」
第2位	Milk Stand 北海道興農社	「牧場直送ソフトクリーム」
第3位	道産和牛専門店 牛美道	「よつばのソフトクリーム」
第1位	小樽洋菓子舗 みよ子	「ムースフロマーゼ パルフェ」
第2位	わかさいも	「あんぽてとソフト」
第3位	東亜和洋館	「和洋ソフトクリーム」

こんなにたくさんのお店が新千歳空港にはありますよ!

TOPICS

EXPERT GENERALIST COURSE

## 在宅リハビリテーション エキスパート・ジェネラリストコース

令和6年度在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースの申込が既に始まり、多くの方にお申込みをいただいております。今年度からは協力団体として日本リハビリテーション病院・施設協会が追加され、3団体の会員が受講対象となりました。今年度も、オンラインと集合形式を組み合わせた開催方法で開催いたします。募集人数が限られており狭き門ではありますが、まだまだお席に空きがございますので受講をご検討されている方はお早めにお申込みくださいませ。詳細は下記および当協会ホームページをご参照ください。



【主催】 一般社団法人 全国デイ・ケア協会

【協力団体】 一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会  
一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会

【令和6年度在宅リハEGコース日程】

- ①2024年8月3日(土)～4日(日)
- ②2024年10月11日(金)～13日(日)
- ③2024年12月6日(金)～8日(日)
- ④2025年1月10日(金)～12日(日)
- ⑤2025年3月1日(土)～2日(日)

【研修会場】 ①⑤集合開催(東京) ②③④オンライン開催

【研修費用】 一般 ¥120,000 認定デイ・ケアマスター ¥90,000

【対象】 主催または協力団体会員で、以下の条件に当てはまる方  
●受講開始時点で経験5年以上(うち生活期の経験2年以上)の専門職  
※施設長の推薦が必要  
●医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・管理栄養士・歯科衛生士のいずれかであること  
●すべてのプログラムにご参加できる方  
※会員が所属している法人職員も受講可能

【定員】 40名

【申込期限】 7月15日(月)

【当協会ホームページ】 <https://day-care.jp/kenshu-eg>





# 10th ANNIVERSARY



## 一般社団法人全国デイ・ケア協会 法人化十周年記念式典



## 一般社団法人 全国デイ・ケア協会 法人化十周年記念式典

当協会の前身である「全国老人デイ・ケア連絡協議会」は、平成6年に全国の有志が集まり、情報共有・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として結成された。そして、平成25年に「一般社団法人全国デイ・ケア協会」と名称を改め、今日に至る。このたび当協会が法人化して10周年を迎えるにあたり、東京ディズニーランドホテルで記念式典が挙行された。法人化以前からデイ・ケアの在り方を普及、啓発してきた功労者が参列し、当時の想いを語り、そして変わらず普遍的なものであることを再認識し、これからのデイ・ケアをより良いものにする、結束を深めた。

近藤国嗣会長は、当協会に所属する事となった経緯やいきさつを交え挨拶した。続いて斉藤正身名誉

会長は、連絡協議会時代から功労者と共に振り返り、今までの歴史を踏まえ、改めてこれからのデイ・ケアそして協会の在り方について「デイ・ケアは、昨今のリハビリテーションのみに特化した形態も一つの在り様であるとしながら、地域の重要な生活の基点であり、重度で医療的ケアが必要であっても、多様なニーズに応えていくことが使命である」とした。

式典には様々な関係団体、当協会関係者、さらには会員にも参列いただいた。栗原正紀氏（全国リハビリテーション医療関連団体協議会 代表）、安保雅博氏（日本リハビリテーション医学会 理事長）からは、それぞれの立場から、当協会との思い出やデイ・ケアにかける期待をお話しいただいた。

全国デイ・ケア協会として10周年の節目を迎えたが、協会のみならず、新入職からベテランまでが一丸となり、今後更なるデイ・ケアの進化を確信する時間となった。





## 活動 × 参加

今回の活動と参加してみた!には「安全管理対策セミナー～送迎業務編～」 「戦略的事業運営セミナー」 「在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース」にご参加された3名にご登場いただきました。様々な場で多くの発見や学びが感じられています。熱い想いを一読ください。

## 活動と参加してみた!

### @ 安全管理対策セミナー～送迎業務編～

今回は安全感染管理マニュアル～送迎業務編～に参加しました。①転倒対策について。利用者ごとに介助方法や範囲は異なるため、口頭や書面で何時でも確認出来る様にする。送迎ドライバーの高齢化、多職種による送迎も多く、利用者・スタッフを守るためにも定期的な研修や訓練が必要であると考えます。②交通事故防止について、体調不良のスタッフには躊躇せずに中止の指示を出す事、毎日の車両安全点検、安全運転の5則を意識づけて行くこと。利用者や自分自身を守る為にも全車ドライブレコーダーの設置も検討したいです。③緊急時の対応について。「送迎」とは利用者が自宅と事業所を安全に移動するための介助です。緊急時のマニュアルはすぐに見る事ができる場所に設置する必要があります。事故発生時はパニックに

なりやすく自身の負傷も考えられます。負傷者の救護や警察・救急への連絡、BLSを実施する為に現場対応版と事務所対応版の両方を準備し、迅速な対応が必要です。又、走行中の体調不良に備えた急変時のマニュアルも同様です。今回は大きく3つの安全対策を学びました。送迎中の大きな事故こそまだありませんが、実際に起きたことを想定してのシミュレーションを行い、出てきた課題を検討後、対応策をスタッフに周知していく事が目標となりました。研修に参加させて頂きありがとうございました。

医療法人社団慶仁会  
介護老人保健施設 ビハール光風  
介護福祉士 三宅 亜矢子



## 活動と参加してみた!

### @ 戦略的事業運営セミナー

理学療法士になって約20年経ち、その内の15年以上、当法人の通所リハビリ事業所に従事し、管理者に任命されてからもかなりの年月が経ちました。

その間利用者様に適切なサービスを提供するためには管理者としてどのような姿勢で臨み、チームを率いていくべきなのか悩むことがあります。そんな時はデイケア協会の研修に参加するようにしています。

研修の中で経験豊富な講師の方の講義を聴き、グループワーク等で同じ立場で日々業務する皆様とディスカッションをすることで自分の考えを整理し次の日からの業務に活かすようにしています。

今回、戦略的事業運営セミナーに参加させて頂く機会を得ました。岡野先生から通所リハの動向を踏まえてサービスの質を高めるために必要な考え方を学び、佐々木先生からはリハビリ計画書を

作成するにあたって、基礎となる考え方を再確認させて頂きました。午後に入り仁科先生から事業所の特徴を高める重要性を学び、グループワークでは様々な事業所の方と有益な情報共有ができました。

令和6年度の介護報酬改定を迎えるにあたって、今回も自分の考えを整理するきっかけを与えて頂き、自分のモチベーションを高める機会にもできたと感じています。来年度以降も積極的に研修会へ参加をしたいと考えています。

オネスティ南町田  
理学療法士 森本 卓也



## 活動と参加してみた!

### @ 在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース

私は主にデイケアで管理業務や現場の業務に携わっています。ご利用者やご家族、ケアマネジャーや他事業所と協業する中で、自身の知識や経験のなさを痛感することが多々ありました。そんな中、今回のEGコースに参加する機会を頂きました。以前から気になっていた研修でしたが、参加した率直な印象は「こうあるべき、との理想を考え、自身の仕事へ落とし込んでいく事ができる研修」です。延べ36の講義があり、先生方は各講義内容のエキスパートでした。研修では、その先生方の経験や考え方を学び、更には濃密に質問できる環境を得ることができました。併せて、グループワークや懇親会で、受講した仲間と情報交換や共

有、共感をする経験ができたことも有意義でした。自身の足りない部分に気付く事ができましたので、時間をかけながらご利用者やご家族がより良くなるよう、そして何より自身の成長になるように自身の日常へ落とし込んでいきたいと思っております。このような機会を与えて下さった職場と先生方、全国デイ・ケア協会の皆様に感謝申し上げます。

介護老人保健施設花の丘  
作業療法士 高取 隆至



## 認定 デイ・ケア マスター の 声



### Master's Voice

上田 智奈美 (理学療法士)  
介護老人保健施設アンジェロ



奈良市にある医療法人あすか会介護老人保健施設アンジェロに理学療法士として勤務して14年目になります。当初より施設サービスや居宅サービスに幅広く関わらせていただいております。

特に私が力を入れているのはデイケアにおけるリハビリテーション会議です。デイケアは利用者様はもちろん、家族様や居宅のケアマネジャー、福祉用具、老健医師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、介護職といった多職種連携がもっとも色濃く表れる現場です。利用者様の在宅生活に密着しているため課題がみえやすく取り組んだ事の結果が実感として得やすいのも魅力の一つであると感じています。リハビリテーション会議では利用者様の課題に対してそれぞれの専門職が課題に対し専門性を発揮していきやすい方向性を示せるよう工夫を重ねながら日々取り組んでいます。また今のサービスが本当に適したサービスなのか、日々の利用者様の状態に敏感になりながら随時調整し利用者様の自立支援につなげていけるよう意識しています。

またデイケアならではの特徴を活かし生活行為向上リハビリテーションにて利用者様の自立支援に向けて積極的に関わらせて頂いており、諦めていた趣味を復活させることができた喜びの声も聞かれています。すべての利用者様において必要と感じたなら速やかにご自宅訪問を実施するよう心掛けており、必要な方に必要な支援がスピーディーに行えるようこだわって取り組ませて頂いております。最近ではセラピストがデイケアの入浴にも積極的に関わるようになってきました。自宅で自分の生活リズムを乱すことなく好きな時間にゆっくりと入浴するための足掛かりを作れたらと取り組ませて頂いております。

今回認定デイ・ケアマスターを取得させて頂き、その後在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースを受講させていただくことでデイケアへの理解がさらに深まりました。まだまだ未熟ではありますが学んだ知識を活かして、すべての利用者様が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように、在宅にこだわり在宅での生活が継続できるように自己研鑽に励みながら貢献していきたいと思っております。





この10年で日本の総人口および生産年齢人口の急減および、85歳以上の人口割合の急増だけでなく、世帯構造では65歳以上の単身世帯や夫婦のみの世帯が増えるなど、介護保険を取り巻く状況は大きく様変わりしている。また急増する高齢者の特徴として、認知症や廃用症候群をはじめとする老年症候群の罹患率の高さが挙げられことから、介護保険サービスは、医療と介護のニーズを持ち合わせる利用者に適時適切に対応することが求められている。こういった社会情勢の変化に対応すべく、誰もが役割を持つ地域共生社会を目指すため、6年に一度となる今回の医療・介護・障害福祉のトリプル改定では、さまざまな主体間での連携・協力を推進するに至った。

通所リハビリテーション（以下、通所リハ）はというと、「介護事業経営実態調査」での収支差率が1.8%と厳しい結果でありながら、医療と介護の連携推進や共生型サービスの新設など、地域包括ケアの拠点機能としての期待から、自立支援・重度化防止に向けた体制整備の更なる強化が求められた改定であったといえる。

その中のポイントは大きく3点。まず「医療と介護の情報連携」として医療機関のリハ計画書の受け取り義務化があり、診療報酬上でも同様の手当てがなされたが、手間が増えると考えより利用前の情報が手に入れやすくなったと考えるのが自然であろう。あわせて「退院前共同指導加算」の新設は当協会が要望したものであり、退院支援に在宅リハの視点を入れられることと、シームレスな利用が期待できる。

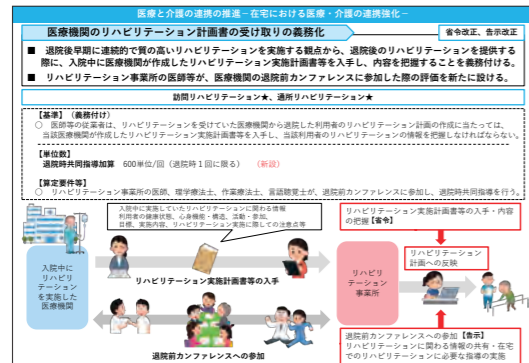
次に、前回改定からの積み残しでもある「リハ・口腔・栄養の一体的取り組み」があり、説明するまでもなくリハビリテーションの提供には栄養状態と口腔機能が重要で、加算の要件を満たす個別の状態把握等だけでなくそれぞれの関連を分析することで、効果的で個別性の高いサービス提供につながるであろう。

もう1点、個別性の高い計画の策定には利用者を含む多職種協働のための協議の場と、居宅訪問や敷地外活動による実生活とのつながりが欠かせないが、そのための体制整備としてリハ専門職の充実した配置はもちろん、リハビリテーション会議を含むリハマネジメントの提供体制の充実が必要となる。

実はもう一つ、個人的な関心事として地域共生社会の実現に欠かせない取り組みである「共生型サービスの拡充」がある。わが国はとかく縦割り行政のしわ寄せで、制度の垣根を超え既存のサービスとして地域の方々を多面的に支援することが難しい。その突破口として、障害福祉サービス対象者を通所リハで受け入れ可能となったことは、通所リハが地域の拠点機能を発揮するチャンスであり、多くの事業所でぜひ実践していただきたい。

介護報酬改定は、書類や手間が増えたり体制強化を求められるなどかくネガティブにイメージされやすい。過去の改定でも高いハードルが多く設定されてきたが、そのことで現在の通所リハは多機能となり多目的な利用が可能となったといえる。地域から期待されるサービスとして、さらに高みを目指してみようではないか。

一般社団法人全国デイ・ケア協会 制度担当理事  
医療法人真正会 本部付部長  
岡野 英樹



## すぽっと・らいと

～あなたの職場のプロフェッショナル～

通所リハではリハビリスタッフ、看護師、介護職など様々なスタッフを中心にサービスを提供しております。本誌では前号より新たな企画として、通所リハで活躍している様々なスタッフを紹介していきます。

今回は医療法人社団 北樹会病院 在宅リハケアセンター つきさつ通所リハビリを力強く支えてくれているスタッフにスポットライトをあてて、事務職の佐々木斐さん・松重亜希子さんにお話を伺いました。

医療法人社団 北樹会病院  
在宅リハケアセンター つきさつ通所リハビリ



**委員:** 事務員として働くきっかけは何でしょうか？

**松重:** 介護サービス事業所の事務員として勤務経験があり、多くのサービス事業所（通所系・訪問系）がある当法人を選びました。

**佐々木:** 歯科の受付で勤務していましたが、家族がリハビリを受けている姿を見て自分もリハビリをサポート出来る場所働きたいと思ったのがきっかけです。

**委員:** 働いてみて感じた事はありますか？

**松重:** リハ職の割合が多く驚きました。若いスタッフが多いので、刺激になっています。

**佐々木:** 算定加算の種類が多く利用者様によっても異なるため、ミスが起きない様工夫して業務に取り組んでいます。

**委員:** 働いてみて「良かった」と感じることはありますか？

**佐々木:** 現場に出るスタッフの事務作業量が減る事でそのスタッフが利用者様に関われる時間が増えたり、色々な場面で感謝されることが多く嬉しく思っています。

**松重:** 利用者様がリハビリや活動に取り組んでいる場面を間近で見ることが出来ます。事務作業時もパソコンと向かい合うだけでなく利用者様の顔が浮かぶことでやりがい・楽しみを持ち業務に取り組んでいます。

**委員:** 普段心掛けている事はありますか？

**松重・佐々木:** ミスが起きない事を第一に考えています。その為にも、スタッフと普段からコミュニケーションを積極的に取り、些細な事でも話しやすい環境づくりを心掛けています。

**委員:** 今後の抱負を聞かせて下さい。

**松重:** 介護報酬改定もあり、今まで以上に勉強して利用者様からの問い合わせにしっかりと返答出来るようにしたいです。安心してサービスを利用して頂けるように頑張りたいです。

**佐々木:** 利用者様から話しかけられることもあるので、事務員として利用者様をサポート出来る事があれば積極的に取り組みたいと思います。





# JRAT 活動報告

## ～令和6年能登半島地震の支援を通して～

令和6年能登半島地震における被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ニュースで流れる現地の甚大な被害状況を目にして、自分にできることが何かないかと考えた会員も多くいると思います。

私のこの度の支援活動は、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）を通して行いました。まず所属法人の方針として「積極的に支援を行う」ということを確認し、業務調整のうえ、1月中旬に東京に設置された中央災害対策本部のロジスティック支援に入りました。主たる業務は現地対策本部との情報共有、現地派遣隊の連絡・調整、派遣者への委嘱状発行、問い合わせの対応、記録と多岐に渡ります。不慣れな内容でしたが、本部の方々のサポートを受けながら業務に従事しました。この本部活動で、現地の逼迫した状況を肌で感じ、所属法人へ更なる支援の強化を提案しました。その時点で、現地への派遣準備も同時に進めており、私は2月2日から4日に志賀町・珠洲市での現地支援活動の機会を頂きました。当時、自動車専用道路は通行止めが多く、移動に多くの時間が必要でした。また、倒壊して手付かずの家屋があちらこちらに認められ、瓦や家具が散在し、被災された方々の心情を察すると非常に心が痛いものでした。現地では現地JRATの指示を受け、派遣先の各地域JRATと協働して避難所を巡回し、環境調整、個別評価や個別対応にあたりました。各避難所では、被災された方々が助け合い、役割を持って過ごしていました。デイケアに関わる者として、デイケアが受け身で、何かをしてもらう場所になっていないか、デイケアの在り方について、考えさせられる時間でもありました。また、現地医療機関の療法士と共に巡回する場面もあり、その地域を理解することの重要性はもちろんのこと、その方の笑顔で多くの方々が笑顔になる場面に直面し、笑顔の持つ力を再認識しました。

繰り返しになりますが、災害支援で自分が役に立つのかと想う方もいると思います。少しでも想いがあれば、微力だったとしても実際に動くことを優先したいと私は考えています。困っている人がいたら声をかけ、そして助ける、そこに理由はいりません。これこそ、リハビリテーションの原点ではないでしょうか。何事も考えるだけで終わらず、行動にうつせる自分であり続けたいと思います。

一般社団法人全国デイ・ケア協会 理事  
医療法人社団輝生会  
澤瀉 昌樹

## 会員施設自己紹介

医療法人博愛会

介護老人保健施設 ペあれんと  
通所リハビリテーション

〒756-0065 山口県宇部市浜町2丁目1-3

### 沿革・施設概要

ペあれんと通所リハビリテーションは、地域コミュニティスペースふあみらんど内の一つの事業所として平成16年に開設、今年4月で20周年を迎えました。定員は80名、利用形態は7-8時間を中心に、2-3、3-4、5-6、6-7と可能な限り利用者さまのニーズに対応した運営を行っています。令和3年度からは

- ① 想いをかなえる「リハビリテーション」
- ② 利用者さまの活躍を応援する「真の自立支援」
- ③ 安心の「医療スタッフ配置」

以上の3つをブランドとして掲げ、地域で選ばれる施設となるために新しい通所の体制作りを進めています。3つのブランドごとの特徴をご紹介します。

### 想いをかなえる「リハビリテーション」

【生活行為向上リハビリテーション】最大の売りのポイントはこの生活行為向上リハビリテーションです。生活行為向上リハに精通した作業療法士を配置し、活動・参加に焦点を置き、利用者さまの「したい活動」を目標として掲げ、達成に向けて施設・自宅・地域環境の中でリハビリを展開していきます。「温泉に行く」「犬の散歩に行く」「車の運転を再開する」など、さまざまな生活行為の向上を目標にしたリハビリを行っています。



買い物動作確認中



調理模擬訓練

### 利用者さまの活躍を応援する「真の自立支援」

自立支援に特化したいくつかの取り組みをご紹介します。

【朝夕の集い】集いの司会進行を利用者さまに実施していただきます。司会・挨拶・ご紹介者・昼食メニューの紹介と毎日4名の方が担当され、職員と協働して集いを運営していただきます。輝ける場作りを意識し、利用者さま一人ひとりをスターにすることを目標に行っています。



集い進行グループ時前打ち合わせ

## 利用者さまの輝く場面を引き出し、 参加・活動に焦点を置いた リハビリの実施

【利用者さま懇談会】利用者さま自らが通所の運営に参画し、利用者本位のサービスが提供できる施設作りを目指しています。利用者さまがただサービスを受ける高齢者としてではなく、自立した主体的な存在として位置付けるために、「利用者さま懇談会」を行っています。現在木曜日と金曜日の2グループで月に2回ほど開催しています。懇談会では、利用者さまから、運営に関する様々なご意見をいただいたり、さまざまな自立支援の取り組みを職員と一緒に取り組んで下さり、通所運営には欠かせない大事な存在となっています。



金曜日懇談会

### 安心の「医療スタッフ配置」

理学療法士、作業療法士をはじめ、医師・言語聴覚士・看護師・管理栄養士などの充実したスタッフ体制のもと、重度な方でも安心してご利用いただけます。



「家に帰りたい」思いを多職種で支援

### 最後に山口県初の「しゃべる～む」(失語症デイ)のご紹介

新体制作りの一つとして、コミュニケーション障害のある方が、気兼ねなく参加し、多くの方との交流が活発化し、自分の持っている力を存分に発揮できるための居場所作りが必要と考え「しゃべる～む」(失語症デイ)を2021年10月に開設しました。定員10名と小さな集団の中で、グループワークや個別の言語訓練等を通してコミュニケーションの輪が広がっています。



午後からのグループワーク

本コーナーにて「ぜひ私の施設を紹介したい!」という会員様は、事務局までご連絡をください。



# 一般社団法人 全国デイ・ケア協会

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は1994（平成6）年、老健のデイケアや病院・診療所のデイケア等、全国様々あるデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として開設し、これまで活動を続けてまいりました。

現在当会は介護報酬改定における通所リハビリテーションの窓口を担い、報酬改定時においてはリハビリテーションマネジメントと通所リハビリテーションの意義を問い、加算として位置づけ、質に関わる根幹を表現してまいりました。

また、重度者に対してもより手厚いケアが提供できるサービスとして、地域でのリハビリテーション資源として重要であることを明確にしてまいりました。生活行為向上リハビリテーションの普及については特に、厚生労働省および各種団体との連携役とし、研修や企画に参画し現在に至ります。

これも一重に、会員施設の皆様から頂いた多くのご意見や、ご協力の賜物でございます。

ついでに、今後一層地域でのデイ・ケアの役割を全うするために、協会としてより多くの「声」を賜りたく、皆様のお力をお貸しください。

より一層、通所リハビリテーションが地域に必要とされ地域生活の中核を担うサービスとなるために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 会員特典

Join Us

### ● 当会主催研修会、研究大会を会員価格にて参加可能

- ・全国デイ・ケア研究大会、リハビリテーション・ケア合同研究大会 ・主催研修会
- ※オンライン開催の研修会も多数企画していきます

### ● 「デイケアニュース」の定期発送

- ・年2～3回発行しております。
- 各種研修会情報、協会の活動報告、トピックス、会員施設紹介などご提供しています。

### ● 制度関連や現場で困っていること等の問い合わせが可能

- ・原則、会員様のみご対応させていただいています。

### ● 会員ページの閲覧が可能

- ・各種資料のダウンロード、研究大会抄録集、当会実施アンケート結果などの閲覧が可能です。
- 今後さらなるリニューアルを検討しています。

### ● 会員への定期的なメール配信

- ・研修会案内
- ・制度関連情報 等

※正会員（事業所）の職員は全員上記特典の対象となります。

## 一般社団法人 全国デイ・ケア協会 事務局

住所：〒101-0047 東京都千代田区内神田2-4-2 一広グローバルビル5階  
TEL：03 (5207) 2710 FAX：03 (5207) 2711  
E-mail：info@day-care.jp URL：www.day-care.jp

## 編集後記

今号の編集に当たっては、数年ぶりに、対面での委員会を開催致しました。研究大会等を通して、委員同士で「立ち話」程度に、ごく簡単な意見交換をすることはありました。やはり、その時に特に強く感じたのは「顔が見える方が、意見交換がし易く、良い意見がでる」ということでした。その様な経緯もあり、今回は、対面での委員会の開催に至りました。全国各地から委員が集まり、お互いの表情を見ながら、第22号のデイケアニュースを編集致しました。今回は6月に開催される「第46回全国デイ・ケア研究大会2024in札幌・北海道」、デイケアに携わる多職種を紹介する「すぽっと・らいと」など、情報満載です。きっと、各委員の「情熱」と委員会の雰囲気そのままの、「デイケアへの強い想い」が伝わるとおもいます。今後のデイケアニュースにも期待していただければと思います。

岩淵 隆俊 (全国デイ・ケア協会 広報委員会)  
介護老人保健施設せんだんの丘